

2007.02.01 結核菌感染診断検査(QFT-2G)を受託開始しました。

QFT-2G(クオンティフェロンTB-2G)とは？

人が結核菌に感染すると、体内のT細胞がその情報を記憶し、再び結核菌あるいは結核菌と同様な抗原が体内に侵入した際に、「IFN- γ 」という物質を産生します。

この性質を利用して、刺激抗原を添加し、IFN- γ の産生の有無により、感染しているかどうかを診断します。

特徴は、QFT-2G で使用する刺激抗原(ESAT-6、CFP-10)が、ツベルクリン反応検査で使用する刺激抗原(PPD)と比べ、**BCGの影響を受けない**ので正確な判定が可能であること。また、受診者の皮膚反応を測定して診断する、ツベルクリン反応検査が、再診の必要があるのに対し、QFT-2G は、再診の必要がなく、受診者にも負担の少ない検査です。

ツベルクリン反応検査で使用する、PPDは、BCG ワクチンのアミノ酸配列と類似性が高く、BCG 接種が一般的である日本では、結核菌に感染していなくても陽性(偽陽性)と判定される確率が高くなります。

検査対象および目的

- ・結核の集団感染
- ・初感染結核の診断補助
- ・活動性結核の診断補助
- ・感染性結核患者との接触者
- ・医療・介護職員および学生等の定期健診
- ・その他定期外健診

検査概要

検査項目名	結核菌特異蛋白刺激性遊離インターフェロン 測定 (QFT-2G)
検体量	ヘパリン加血液 10ml
容器	ヘパリンNa容器
保存方法	室温(17~27℃) 注:冷凍・冷蔵厳禁
検査方法	ELISA法
検査料金	6,000 円(税抜き)
所要日数	3~15日
備考	予約検査となっておりますので、事前連絡をお願いします。 検査受託は月~金(祝祭日前日を除く)曜日です。 採血後、 穏やかに約20回転倒混和 を行ってください。 採血後、 12時間以上経過した検体での検査はできません ので、ご依頼状況によっては受託できない場合があります。